

INTERVIEW

太陽光発電パネル用板ガラスの製造・販売事業に融資

日本企業の米国法人、ベトナム法人の製造プラント建設を支援

産業ファイナンス部門 産業投資・貿易部 第1ユニット
宇都宮 俊夫 調査役、田宮 慎太郎 副調査役（当時）に聞く

JBIC は、2019 年 8 月、「質高インフラ環境成長ファシリティ（QI-ESG）」の一環として、日本板硝子株式会社のアメリカ合衆国法人 NSG Glass North America, Inc.（NSG GNA）及びベトナム社会主義共和国法人 NSG Vietnam Glass Industries, Ltd.（VGI）との間で、総額 154 百万米ドル（JBIC 分）の貸付契約をそれぞれ結びました。本融資は、株式会社三井住友銀行、三井住友信託銀行株式会社および株式会社みずほ銀行との協調融資であり、協融総額は 298 百万米ドルになります。

本融資は、NSG GNA が米国オハイオ州に建設する新工場や VGI のバリアブントウ省の工場設備の改修・増強に充てられます。

「再生可能エネルギーに関する事業」として融資

太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの活用が世界的に拡大しています。太陽光発電パネル市場では中国企業が優位にある中で、米国企業の中で唯一高いシェアを維持しているのがファーストソーラー社（FS）です。日本板硝子は、FS との間で長期供給契約を締結しており、FS の高機能モジュールの増産に対応するため、米国及びベトナムにおける新規設備投資を通じて、その基幹部品である透明導電膜ガラス（TCO ガラス）の供給体制を確立することを企図しています。

太陽光発電モジュールは、一般的には結晶シリコン系と呼ばれるタイプが主流ですが、これは高温下ではエネルギー変換効率が低下する弱点があります。一方、FS が製造する薄膜系と呼ばれるタイプは、製造コストが低いことに加え、気候の変化に強く、出力が安定しやすいところが特徴です。FS の薄膜系太陽光モジュールの製造には、日本板硝子が生産する TCO ガラスが不可欠です。日本板硝子は FS の高機能モジュールの増産に対応するため、TCO ガラスの生産設備を米国に新設するとともに、ベトナムにある既存の生産設備を改修・増強することになりました。このような状況のもと、2018 年夏、日本板硝子より JBIC へ融資依頼が持ち込まれました。

この融資について、宇都宮調査役は「本融資は地球環境保全目的に資する案件として「質高インフラ環境成長ファシリティ（QI-ESG）」を適用し競争力のある条件での融資を実現したこと、米国向け案件について「再生可能エネルギー発電に不可欠な事業」として先進国向け投資金融を実現したことが大きな特徴です。また、民間金融機関だけで日本板硝子の海外子会社向けに長期・巨額の融資を行うのは難しいことから、事業リスク補完等の観点で協調融資による支援を行いました」とポイントを説明します。

早期契約を目指して課題をクリア

2018 年末頃より本格的な交渉がスタートしました。「JBIC では、日本板硝子を含めて窯業向けの融資がしばらく途絶えていたこともあって、窯業業界の現況調査から始めました。その後、TCO ガラスの技術的優位性や日本板硝子のビジネ

スパートナーとなる FS の経営・事業戦略等、多岐に亘って検証しました」と宇都宮調査役。

「留意したのはスピードです。市場環境の変動が激しい業界だけに、様々な課題を迅速にクリアしていかなければなりません。融資検討も大詰めを迎えた 2019 年 3 月初旬、日本板硝子の舞鶴事業所を訪ね、板ガラスの製造現場を見学させていただきました。その時初めて、製造過程のガラスの様子や、高機能なガラスの製造方法等に関するイメージが具体化し、資料だけでは把握できないことが明確になり、大きな収穫となりました。また、日本板硝子の米国とベトナムの事業にかける意気込みも肌で感じる事ができました。このことが課題解決の突破口となり、案件承諾に向けたモメンタムが更に高まりました」と田宮副調査役は振り返ります。

日本板硝子の戦略的事業に貢献

今回の融資について、田宮副調査役は「営業部に配属されて初めて取り組んだ融資案件です。案件取上の検討に始まり、契約交渉や貸出実行の事務手続きに至るまで、一貫して担当できたことで、今後につながる大きな基盤を構築することができました。この経験を生かして、更に幅広い仕事に取り組んでいきたいと思っています」と語っています。

宇都宮調査役は「ESG 投資の潮流に即する形で、地球環境保全目的に資する本融資を実現できたことは大きな意義があると言えます。日本板硝子は TCO ガラスのような高付加価値（VA）製品の開発・販売強化を経営戦略に掲げており、当該戦略の一環に位置づけられる本事業を支援することが出来たことは大変光栄に思います。」と総括しています。

